

烏山和紙が歴史に登場したのは奈良時代の頃で、鎌倉時代には「那須紙」という呼び名で全国に知られていました。江戸時代になると、農作業の合間に、約九十軒の家が生産していたと言われています。

当時、「那須紙」と呼ばれたものには、程村紙、檀紙、十文字紙、西の内紙という和紙がありました。中でも厚紙の最も貴重な品といわれる程村紙は、烏山和紙を代表する和紙で、現在は国の選択無形文化財に指定されており、福井県越前市の「越前奉書」、岐阜県美濃の「直紙」、山口県岩国市の「岩国半紙」、茨城県常陸大宮市の「西の内紙」と共に、日本の代表的な五紙の一つとされ、その圧倒的な美しさから、皇居用の懐紙や烏山藩の藩札など、重要書類に使われてきました。

しちぎの百葉
6
100

厚く丈夫で、
県内外の卒業証書にも使われている

烏山和紙様



照明器具や人形、小物入れ、封筒など、烏山和紙の風合いを活かしたモダンな製品がいろいろつくられている。



最上級の手漉き紙、烏山和紙に使用している那須楮は、日本で最も優良な楮といわれている。



帝国ホテルや松が峰教会でも使われた
重厚で温かみのある建築材

大谷石様



【大谷石地下採掘場跡(巨大地下空間)】野球場が一つ入ってしまうほどの広さであり、古代の神殿にもたとえられる幻想的な佇まいを醸し出す。近年、神秘的な雰囲気や音響の良さが評価され、コンサートや美術展、演劇、またTVドラマや映画のロケ地としても利用されている。



【左ノ松が峰教会】

【右ノ昭和30年頃に撮影された旧帝国ホテル】

宇都宮で産出される大谷石は、「おおたにいし」ではなく、「おおやいし」と読みます。街のあちこちに大谷石で造られた石堀や倉庫(石蔵)が見られる風景は、宇都宮近辺を中心とした栃木の風景の特徴と言えるでしょう。軽く、加工がし易く、質感も高いため、建造物の壁面や床などにも使われることも多く、旧帝国ホテル(フランク・ロイド・ライト設計)に用いられたことで知られています。また、宇都宮の松が峰教会は、現存する国内最大級の大谷石によるロマネスク・リヴァイバル建築です。

大谷石の成分は、珪酸・第二酸化鉄・酸化アルミニウム・酸化マンガン・酸化マグネシウム・酸化カリウム・酸化ナトリウムなどで、埋蔵量は約六億トンと推定され、宇都宮市大谷町を中心に東西二キロメートル、南北五キロメートルにわたり採石されています。



【川治温泉】「鬼怒川温泉」と比べると大きな施設は少ないが、それを風情として好まれる方も多く、景勝地「龍王峡」へ続く遊歩道が整備されており、気軽にトレッキングを楽しむことができる。



とちぎの百峰
8
100

美しい溪谷沿いに広がる首都圏の奥座敷

鬼怒川・川治温泉様

鬼怒川の美しい溪谷沿いにあるふたつの温泉地は、「傷は川治、火傷は滝（鬼怒川温泉のこと）」と称され、それぞれの個性が楽しめます。

「鬼怒川温泉」は、江戸時代に発見されたといわれ、日光の寺社領であったことから日光詣りの諸大名や僧侶たちだけが利用を許されたという、大変由緒正しき温泉です。

明治時代に一般開放されてから、たくさんのお客さんが訪れるようになり、箱根や熱海と並んで「東京の奥座敷」と呼ばれていました。

そして「川治温泉」は、鬼怒川温泉のもっと上流、男鹿川と鬼怒川が合流する溪谷に佇む、静かな温泉郷です。発見されたのは十八世紀前半の享保年間といわれており、会津街道の宿場町や湯治の場として、古くからたくさんの人に愛されてきた歴史を持っています。



【鬼怒川温泉】美しい鬼怒川の溪谷沿いに、旅館やホテルが建ち並ぶノスタルジックな雰囲気温泉街で、秋になると、鮮やかに色づいた紅葉が圧巻。周辺にはテーマパークも多く、年間200万人以上の宿泊客が訪れる。